

医療安全全国共同行動2周年記念フォーラム

挨拶

日本医師会会長 原中勝征

ただいまご紹介にあずかりました、この4月から日本医師会会長になりました原中です。私たちがこの医療安全全国共同行動の一員として参加しておりますことを大変大切にしていかなければならないと思っています。

先程、連絡会議に出席させていただきました。その中の発言の内容は、まさに今私たちが考えていること、感じていることでした。人が足りない、お金が足りない、その中でどうやって患者さんを安全に守っていくか、ということを実際に真剣に考えていかなければならないと肝に銘じたところです。

本当に良い医療制度がある国は国民が幸せである、逆に言えば、きちんとした制度がないところはやがて国民が不幸になる。今、日本では、医療崩壊ということがやっと国民に知られてきました。以前、患者さんのたらい回しや大野事件が生じた時、私たち医師、あるいは医療従事者の全ての人々は世の中から批判を受けました。私たちはいつでも、一生懸命、患者さんの安全、治療効果ができるように考えているにもかかわらず、世の中からは、医療に携わる人は自分たちよりも強い立場からものをみている、行動していると思われがちです。私はそういう社会は一日も早く払拭して、本当に国民が幸せになるような医療制度の中でこういう問題が論じられれば良いと思っています。

日本の医療に関する法律は、どうも医療関係者が最初から悪いことしているという前提で作られているようです。人間が、医療関係者が、一生懸命努力しても、その評価がいつも正当にされていないという残念さを感じております。

私は、今回医師会会長に就任して、まず、世界一良い医療制度に国民の14%しか満足していないという数字をみて大変残念に思いました。

今の日本の経済状態からどうやって自分たちの医療を守るかということも含めて、国民の皆さま、医療関係で働く方々、あるいは政府と一緒に、日本の国民が、この国民皆保険の中で、安全で安心で、生涯安心して日本人であるという生活がおくれるような、そんな社会作りに少しでも貢献したいと考えています。

この共同行動が、今後どんな形であれ引き続き継続され、患者さんの安全が確保されることを祈念したいと思います。

共同行動では8つの行動目標を挙げていますが、日本医師会では今年の3月に診療所でもできること、診療所でも努力すれば守れるようなこととして9つ提言し「医療事故削減戦略システム」という冊子を出しました。もし手元にない方は医師会にご連絡いただければと思います。

最後に、共同行動が、さらに実のある、国民の安全を守っていただけるような事業であり続けることを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。